２０２１年度　博士課程学位記授与式　　学　長　式　辞

本日 東京医科歯科大学　大学院博士課程の学位を取得された皆さん、修了 誠におめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な行事の中止、規模の縮小などを余儀なくされ、多大な不便を被られた皆さんが　苦難を乗り越えてこの日を迎えられたこと、教職員一同とともに心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日学位を取得されたのは、ご自身の努力もさることながら、指導教員、ご家族や友人その他の方々のお力添えがあってのことと思います。本日は感染拡大防止のため、この会場にお招きすることが叶いませんでしたが、周囲の方のご理解とご協力にも敬意を表します。

本学のような医療系大学の最終目標は、優れた研究成果を上げるだけでなく、その成果を社会に還元することであります。大学院の博士課程は皆さんにとって自分の未来への投資であったと思います。しかし、本学は国立大学であり、皆さん自身に国民が投資していることも　社会貢献の観点から　是非心に留めておいて頂きたいと思います。

皆さんもよくご承知のように本学はコロナウイルス感染症に正面から立ち向かった代表的な大学です。 コロナ重症患者を最も多く受け入れたのは本学の病院であり、並行して145件の基礎および臨床研究を進めています。その背景には、「知と癒しの匠を創造し人々の幸福に貢献する」という本学の理念がありました。そしてこの貢献には、現在の、眼前の患者の診療と共に、未来に繋がる研究や情報発信も含まれています。実際、変異株の知見などの成果を社会に発表して大きな反響を呼んでいます。

本学は、2022年度から、すなわち来月から指定国立大学法人となります。東大、京大などの総合大学の中で、医系の国立大学として唯一認定されました。我が国の教育・研究をリードする大学という意味であり、指定国立大学法人の申請書には本学の今後10年以上に渡る基本的な方向性が記されています。

その統一テーマは「世代を超えて地球・人類の「トータル・ヘルスケア」を実現する」というものです。

そして、学問の自由 Academic Freedom，研究の正しさ　Academic Integrity, 社会貢献　Social Impactの三つを重視するという基本方針に則り研究を展開することとなっています。指定国立大学法人になるのはこれからのことですが、研究の三原則は普遍的なものです。

では、大学院における皆さんの研究はどうだったでしょうか？

課題は指導教員から与えられたものだった、社会貢献に直接結びつくかどうかも確証が持てないという人もいるかと思います。研究の正しさでさえ、将来は否定されるかもしれないと思う人もいるかもしれません。しかし、本格的な研究に取り組んだ大学院の経験を発展させれば、オリジナリティに富み、インテグリティを具え、ソーシャルインパクトの大きい研究を産み出していくことが皆さんには出来ると思います。

パンデミックがようやく収束の兆しを見せてきた今、世界はウクライナ危機に直面しています。このような歴史の転換点にある私達は、社会としても個人としても大きな変革が求められています。そして その変革の実現には、医学・医療の分野を越えて広く社会が連携する必要があります。もともと、コネクテッドをキーワードとするSociety 5.0の考え方も、SDGsという世界共通目標の設定も、背景にはこのような社会全体の協調思想があるのです。そして、それが必ずしも容易ではないことは、この数年の事象が示しています。しかし、我々にはそれを乗り越えて行くことが求められています。

皆さんの中には、これから社会で活躍される方もいれば、アカデミアなどで研究を続けられる方もいると思います。異なる道に進んでも、同じ東京医科歯科大学大学院で研究したという縁を大切に、コラボレーションを進めていくところに、時代が求める社会貢献も成就し、ひいては皆さんのさらなる発展に繋がると信じています。卒業後の皆さんの研究を支援するため、本学は来年度から若手研究者が交わる機会の創出やスカラシップなど様々な試みを展開する予定です。

東京医科歯科大学は、これらの試みに限らず、今後も皆さんを将来にわたり応援して参ります。皆さんの幸せな未来を教職員一同祈念しつつ、お祝いの言葉と致します。
本日は誠におめでとうございます。

２０２２年3月１７日

東京医科歯科大学　学長　田中　雄二郎